

—全国的に珍しい隣合せの日本遺産—

湯浅町と広川町は、隣接する町でありながら、異なったストーリーで日本遺産認定を受けています。湯浅町は平成 29 年 4 月『「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅』のストーリーで、また広川町は平成 30 年 5 月『「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～』のストーリーで、それぞれ認定を受けており、隣接する町がそれぞれ別のテーマで認定されているのは、全国的に見ても珍しいケースです。

両町の近接した位置関係から、JR湯浅駅を発着点とした2つの日本遺産を巡るまちあるきが新しい観光モデルになると考え、湯浅町・広川町・JR和歌山支社が連携しこのまちあるきマップを作成しました。

—日本遺産ストーリー—

湯浅



「最初の一滴」～醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅～

醤油の起源は、遥か中世の時代、中国に渡り修業を積んだ禅僧が伝えた特別な味噌に始まります。この味噌の桶に溜まった汁に紀州湯浅の人々が工夫を重ね、生まれたのが現在の醤油の始まりと言われています。

醤油醸造業で栄えた町並みには、重厚な瓦葺の屋根と繊細な格子が印象的な町家や、白壁の土蔵が建ち並びます。通りや小路（しよーじ）を歩けば、老舗醸造家から漂ってくる醤油の芳香が鼻をくすぐり、醤油造りの歴史と伝統が、形、香り、味わいとなって人々の暮らしの中に生き続けています。



広川

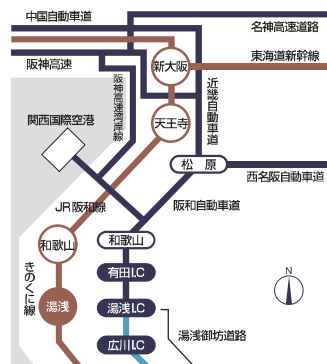
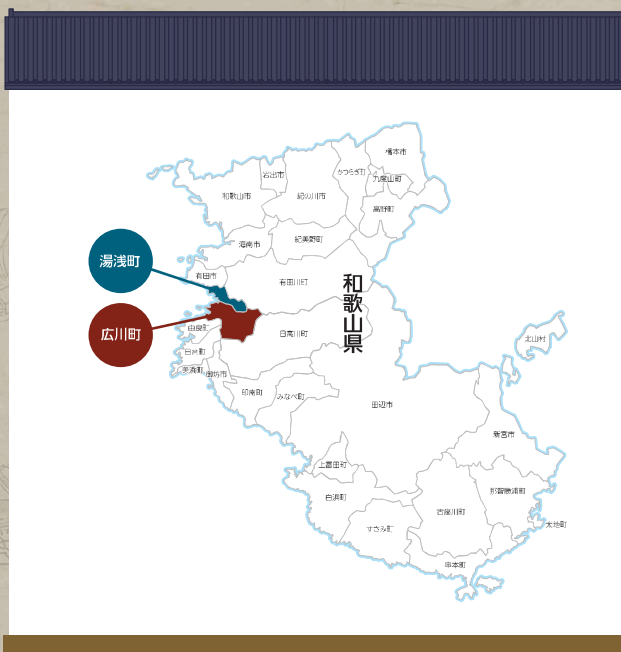


「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～

広川町の海岸は、松が屏風のように立ち並び、見上げる程の土盛りの堤防が海との緩衝地を形づくり、沖の突堤、海沿いの石堤と多重防衛システムを構築しています。

堤防に添う町並みは、豪壮な木造3階建の楼閣がそびえ、重厚な瓦屋根、漆喰や船板の外壁が印象的な町家が、高台に延びる通りや小路に面して軒を連ね、避難を意識した町が築かれています。

江戸時代、津波に襲われた人々は、復興を果たし、この町に日本の防災文化の縮図を呼び上らせました。防災遺産は、世代から世代へと災害の記憶を伝え、今も暮らしの中に息づいています。



和歌山県湯浅町・広川町へのご案内

●電車での場合

新大阪・天王寺→湯浅
[きのくに線(特急くろしお)]
新大阪より約1時間30分
天王寺より約1時間10分
JRきのくに線湯浅駅下車

●お車での場合

大阪→近畿自動車道→阪和自動車道
→国道42号→湯浅町・広川町
[約1時間30分]

(湯浅町)
阪和自動車道有田 I.C.より約5分
湯浅御坊道路湯浅 I.C.より約5分
(広川町)
湯浅御坊道路広川 I.C.より約5分

■湯浅町・広川町に関するお問い合わせ先

湯浅町役場
ふるさと振興課
TEL.0737-63-2525 (代)

広川町役場産業建設課
TEL.0737-23-7764

- お願い
◎町並みは生活の場です。暮らしている人への配慮をお願いします。
◎ゴミのポイ捨て厳禁！美しい町並みづくりにご協力ください。
◎交通量の多い道では、安全に気を配りつつ散策してください。

令和3年3月作成



▲湯浅／湯浅伝統的建造物群保存地区
(伝建地区)



日本遺産

▼広川／濱口梧陵記念館





①湯浅えき蔵
令和2年にオープンした駅前複合施設。1階に駅改札と観光案内所。2階に図書館。1階の観光案内所ではレンタサイクル(有料)を行っている。



②立石茶屋
熊野古道沿いに建つ江戸時代末期の町家を改修した休憩所。熊野古道散策や観光マップを手に入れることができる。



③深専寺
熊野古道沿いにある寺院。本堂や窓門などの建物は県の文化財に指定されている。



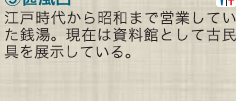
⑤湯浅美味いもん蔵
1階では湯浅の特産品を販売、2階ではしらす丼など湯浅の食を味わうことができる。



⑦太田久助吟製
元は醤油醸造家で現在は金山寺味噌を製造販売。かつての醤油蔵で昔ながらの金山寺味噌を製造している。



⑨甚風呂
江戸時代から昭和まで営業していた銭湯。現在は資料館として古民具を展示している。



④岡正
江戸末期に建てられた町家で、元は「岡正」という屋号の酒屋。伝建地区散策の休憩所で観光マップを手に入れることができ、醤油・金山寺味噌の歴史がわかるパネルを展示している。



⑥北町茶屋いっぶく
江戸末期に建てられた民家を改装したカフェ。外観からは想像できない広々とした吹き抜きの店内は湯浅の町家の特徴。隣の鮮魚店で購入した魚を調理してもらい食べることができる。



⑧北町ふれあいギャラリー
明治時代の建物を改修した館内には、写真や絵画のほかにも季節ごとの作品を展示している。



⑩角長
天保12年(1841年)創業の醤油醸造の老舗。江戸時代に建てられた仕込蔵などの醸造関連の建物は、現在も稼働している。



①稲むらの火の館(濱口梧陵記念館)
濱口梧陵の「西濱口家」をそのまま見学できる「濱口梧陵記念館」と、「津波防災教育センター」を擁する広川町の観光・教育の拠点施設。梧陵に関する史料などが展示されている。



③感恩碑
広村堤防のすぐ近く、海を望むように建つ大きな石碑。広村を守り復興させた濱口梧陵の偉業を称える文言が彫られている。



⑤耐久社
嘉永5年(1852年)、濱口梧陵、濱口東江、岩崎明岳によって、故郷の子弟たちが剣術・漢学を学ぶ稽古場(私塾)として創設された。現在は、耐久中学校の隣に静かに佇む。



⑦濱口梧陵墓
町の復興に力を尽くした濱口梧陵は、明治18年(1885年)、長年働いていたアメリカの視察旅行中客死した。その墓は、淡瀬山の麓にひっそりと建つ。



⑨安楽寺
濱口家とゆかりが深く、代々の濱口家の菩提寺となっている。津波の後、耐久社が一時寺の東隣に移転し、その石碑が残っている。



②濱口家住宅
濱口梧陵と共に広村堤防の築造に貢献した濱口吉右衛門家(東濱口家)の邸宅。3階建ての迎賓施設「御風楼」は、昭和の津波の時は近隣住民の避難場所にもなった。



④広村堤防
安政元年(1854年)の津波の後、「百世の安堵」を掲げた濱口梧陵が濱口吉右衛門らと協力して私財を投じ、村人たちが総出で造り上げた堤防。高さ5m、根幅20m、延長600mの大防波堤は、今も町を守っている。



⑥濱口梧陵銅像
耐久中学校の校庭から耐久社や広村堤防を見渡すように立っている。昭和42年(1967年)に梧陵の偉業を称え、町民の寄付金などで建てられた。



⑧廣八幡宮
安政津波の折、稲むらの火に導かれて、多くの村人がここに避難した。境内には濱口梧陵と親交のあった勝海舟の撰文と題額を彫った大きな石碑が建つ。



⑩養源寺
寺の境内は8代將軍徳川吉宗より寄進されたと伝わる。津波の実況を生々しく書き残した「安政聞録」が所蔵されている。

所要時間の目安

所要時間の目安	所要時間の目安
①湯浅えき蔵	①湯浅えき蔵
《徒歩》	《自転車》
約15分	約5分
④岡正	④岡正
約3分	約1分
⑤湯浅美味いもん蔵	⑤湯浅美味いもん蔵
約5分	約3分
⑩角長	⑩角長
約15分	約10分
①稲むらの火の館	①稲むらの火の館
約18分	約10分
⑦濱口梧陵墓	⑦濱口梧陵墓
約18分	約10分
⑧廣八幡宮	⑧廣八幡宮
約25分	約12分
①湯浅えき蔵	①湯浅えき蔵

モデルコース

距離 約7.5km
(レンタサイクルがおすすめです)

🚲 レンタサイクル 🚻 トイレ
熊野古道(新道) 熊野古道(旧道)